

2／6 農業シンポジウムひらく

TPPは日本の農業を破壊 脅かされる食の安全

菅内閣になってから、にわかに「TPP協定」という耳慣れない言葉が飛びかいはじめ、「TPPって何だいね」と町の人から率直な疑問が出されてきました。そこで共産党フアンクラブ、新婦人、年金者組合、農民連などの団体が実行委員会を作り、2月6日にシンポジウム「TPPと日本の農業」を開催。当日は会場いっぱい、80数名が参加しました。

2月6日(日)午後1時より
池田町福祉会館で開かれたシンポジウムでは、まず実行委員

会を代表して太田勅さんがあいさつ。続いて実行委員の宮田兼任さんが基調報告、TPP



Pはアメリカの農産物売り込みとアジアでの経済圏確保がねらいであり、日本がTPPに参加すると、米の9割が外国産に置き換わるなど、日本農業に壊滅的な打撃となると指摘し、真剣な討論を期待するとのべました。

シンポジウムでは、これに続いて右の4氏による問題提起が行われました。

ない。TPPで日本農業の再生はできないと考える。

日本共産党 山口典久さん

日本共産党長野県委員会の山口さんは、日本をTPPに引き込むアメリカのねらいを解明しつつ、次のように発言しました。

国家としてどうしても守らなければならぬものは、食糧、労働、環境だがこれを全てなくすのがTPP。環太平洋連携協定というが、中国、韓国、タイなど多数の国は参加しない。だから一部太平洋協定と言い変えたほうがいい。

菅内閣はTPPと国内農業は両立できるというが、農業



で失われる4兆円の損失をどう保障するのか。アメリカの関税は自動車で2・5%、電気で1・7%、撤廃しても国内GDPは0・48%、0・56%増えるに過ぎない。

TPPはアメリカの軍事と食糧の世界戦略上にある。WTOと北米連携協定の行きつまりからアジアに目を付け、中国がアジアをまとめる前に影響力を強めようとするものだ。

真剣で活発な 質疑・討論づく

休憩時間を利用して、参加者からたくさんの質問が寄せられました。これらの一つひとつに4氏から丁寧な回答が行われました。

それに続く、討論でも積極的な発言が相次ぎました。

会場からの発言の主なものは次の通りです。

■アメリカのバター、チーズなどの高関税は残って、結果として不平等条約となるのではないか。

■世界は大洪水、干ばつの時代になっており、食糧の備蓄を考えないと危ない。経団連が安い労働力を入れることを望んでいることや、賛成でも自給率を高めよという矛盾をもつと知らせることが必要。

■カリフォルニア米もおいしい

問題提起者

農業者	矢口 一成氏
JA大北	山崎 英男氏
町役場	平林 和彦氏
日本共産党	山口 典久氏

農業者

矢口 一成さん

有機無農薬で米作りを続けてきた矢口さんは、TPPが米作りや食の安全にどんな影響を及ぼすのかについて発言しました。

米の生産費は2006年で60kg当たり1万6750円。それに対して、昨年の米価売り渡し価格は1万2000円という現実がある。

TPPで無関税になると60kg3千円くらいの値段で輸入される。努力して輸出したらというが、09年の生産量は847万ト、その内輸出は1312ト、0・015%に過ぎない。しかも価格は60kg7千円だという。これでは農家はやっていけない。

TPPに参加すれば残留農薬や食品添加物の緩和も強制されるのではないか。

との評価もある、農業の将来性をいえば有機特別栽培米など、多くの人が手を組んで作ることも大事。

■日本は1人あたり9人養えるという。アメリカは0・8人、オーストラリアはなんと0・03人だそう。この国土を大事にしなければならぬ。一方でフードマイレージが最も高い国となっていることを知らせてほしい。

■今日NHKの討論会で、日本の農業を潰さないために企業化を進めるべきだとの話が出たが、とんでもない。大規模化しても潰されてしまう。

■池田でシンポを開催したのは素晴らしい、松川も反対署名を千名集めて議会で決議をあげた。6月に向けて運動を広げるため一緒に頑張ろう。

討論のあと、質問や会場からの発言をもとに、今後の展望について再度4氏から以下の発言がありました。

●今まで私たちは運動によって情勢を変えて来た成果がある、このことを皆さんと確認していきたい。

●カナダはアメリカの求める関税を拒否して協議から撤退した。日本も出来ないことはない。

●全国で1100の地方議会がTPPに反対の決議をして

【用語解説】

TPP(環太平洋パートナーシップ協定)

「環太平洋戦略的経済連携協定」とも言われる。2006年5月にシンガポール、ブルネイ、チリ、ニュージーランドで発効した経済連携協定。その後、米国、オーストラリア、ペルー、ベトナムが参加し、2010年からアメリカ主導の下に急速に推し進められている。関税撤廃に例外を設けず、完全な自由貿易をめざすことから、これに参加すれば、日本の農業が深刻な影響を受けるとして、大きな懸念が広がっている。

JA大北

山崎英男さん

JA大北で常務理事をされている山崎さんは、全国農協中央会が発行したパンフ「TPPから地域社会、経済を守る」を指示しながら、次のように発言しました。

シンポジウムの開催はJAとして感謝したい。信毎のアンケートでは40・6%の人がTPP賛成としているが、その人でも74%は自給率を上げるべきだと矛盾した回答をしている。理解されていない表れた。例外なしの農産物の開放は日本の農業を喪失させる。その額は長野県で680億円、北安でも50億円と予想される。

国を一変させ、農家を危機に陥れる、このようなTPPに反対して、現在全国1千人署名に取り組んでいるのでご協力をお願いしたい。

池田町役場

平林 和彦さん

役場振興課長の平林さんは、戦後の食糧増産の時代から人口の推移など池田町の農業をめぐる歴史に触れながら、次のように発言しました。

長野県のある自治体が、米の輸出を目指して香港に行つたところ、米国産1kg345円、タイ産94円、日本産680円でスーパーに並んでいた、とても競争にならないことを実感したと新聞に出ていた。

オーストラリアの農家の一戸当たり耕作面積は3千畝、池田町は全体で約4千畝、池田町の7割を1人で耕作している。アメリカでも同様だ。

TPPに参加すると、農産物については今までにない展開になる。日本が9ヶ国の中に入り農産物で付き合う必要は

ならない。

大北でも初めての試みであったTPPシンポジウムでしたが、会場を埋め尽くす80数名の参加で大きく成功しました。

ほの町 雑学うんちく

草むらに頭を突っ込んで尻尾を出し、隠れたつもりの様子から「頭隠して尻隠さず」や、男性が野外で排泄することを、登山者の隠語で「キジを撃つ」といいます。ちなみに女性の場合は「お花摘み」とか。また、「雉も鳴かずば打たれまい」は「人柱」にまつわる、信州の悲しい民話としても伝えられています。

池田町には同じ呼び名の「コクチョウ」「国蝶」である「オオムラサキ」が生息しています。この町の豊かな自然を大切にしたいものです。

キジ(雉・雉子)の話

キジは日本の「国鳥」です。肉の味がよいことが「国鳥」に選定された理由のひとつであったそうです。狩猟対象のため、以前は余り見かけませんでしたが、人の居住地近くでの狩猟が禁止されたり、愛鳥週間に放鳥するところもあるようで、最近はずいぶん身近で見かけられるようになりました。

キジにまつわる言葉はたくさんあります。その代表格は「けんもほろろ」、「けん」は「ケーン」という鳴き声から、「ほろろ」は求愛行動で雄が羽根を打ち鳴らす様で、「つっけんどん」と掛け合わせて「とりつくすべのないこと」などの意味で使